

# 長良九条の会だより

NO140  
2018年  
10月号  
事務局 林  
090-6769  
-9809



## 「長良九条の会」12周年企画

### 「お話&カフェ」

10月28日(日) 14時~16時

於・北部「ミニコミュニティセンター」

★お話 崇福寺 住職

東海 康道さん

人を差別したり、又誰もが老いを避けられず、やがて死する人間が、なぜ戦争に向かったりしてしまうのでしょうか。

そんな根源的な問いや、日常的に抱えている問題(子育て・近隣の人との付き合い・介護等)も出し合ってみる良い機会にしたいものです。気楽に参加してください。若い人大歓迎!



崇福寺 (長良福光)

## 「日本の改憲、大きな後退」

【ニューヨーク=赤川肇】マレーシアのマハティール首相(92)は28日、日本の改憲の動きについて「もし改憲して戦争することを許容するなら大きな後退だ」と警鐘を鳴らした。国連総会での一般討論演説後の記者会見で答えた。

かねて評価してきた日本の憲法9条について認識を問われ「(改憲は)平和を促すのではなく、問題解決のために戦争を使う他国に加わることになる」と指摘。9条を「日本が戦争することを許さない憲法」と位置づけ、「私たちも追従することを考えてい

### マハティール首相



る」と述べた。

演説でマハティール氏はテロの続発や米中の貿易戦争を例に「世界は15年前より悪化している。経済的、社会的、政治的に混乱状態だ」と指摘した。

28日、ニューヨークの国連総会で演説後、記者会見するマレーシアのマハティール首相  
UN Web TVから

(中日新聞 9月30日)

### 今後の予定

- \*10月19日(金) 総がかり行動 名鉄岐阜駅交差点 5時半~
- \*10月22日(月) 「9の日行動」サンマート前 チラシ配りと署名
- \*10月28日(日) 14時より 北部コミュニティセンター  
長良九条の会「12周年記念企画」
- \*11月10日(日) 平和のつどい 岐阜市民会館大ホール  
講演 青井未帆さん(学習院大 教授) 13時半~16時

長良九条の会 3000万人署名

10月分 40筆 累計 989筆  
今後も続けますのでよろしく。

※「会報」へのご意見・ご感想  
つぶやき等下記へお寄せください。

◇メール; g-iguchi@poem.ocn.ne.jp

(井口)

◇FAX; 058-297-4540 (平塚)

### みんなの広場

M.S. (長良在住)

「安倍改憲」「九条守れ」などのボードを掲げ、木曜4時から30分間立っています。2015年9月からはじめて、3年になるそうです。私も途中からですが参加しています。

4時頃の北町交差点は、交通量も多く、下校の高校生や、仕事帰りの人も通ります。

「お帰りなさい」「お疲れさま」と声をかけ、若者むけパンフを手渡したりします。顔なじみになった奥さんとは短時間の会話も楽しく、「頑張ってください!」に励まされます。又、「ブツブツ」とクラクションを鳴らして走り抜ける自動車もたまにあり、「継続は力なり」です。

休む時もありますが、できる限り立ち続けたいと思います。安倍内閣が退陣してくれるまでは!

子や孫の為、平和で戦争のない日本。世界を守る為に...

# 「ピースハートぎふ」に光明！ 諏訪原健さん 講演 9.19； 岐阜市民会館

☆この日は9・19、ちょうど安保法成立3年目。

また、当時の「選挙に行こう:キャンペーン」を思い出させる講演でした。

\* 諏訪原さんの民主主義への思いは高校生徒会長として「服装検査と規則」と闘うことから始まった。

\* 民主主義の「観客」から「プレーヤー」へ。海外や福島3.11以降の「社会活動」から学び、「個人」での参加を前提にしたコンセプトをデザイン。

\* 政治文化を変える毎週金曜の夜の「国会前」を「象徴的広場」にしてことが活動を継続できた。

\* 野党共闘の意味

① 候補者一本化により票の分散を防ぐ。 ② 対立軸を明確化することで「分かりやすい」選挙にできる。

③ 共闘の共結点を選挙の「争点」にできる。→ 「受身」ではなくこちらから「争点設定」ができる。

□ 特に印象的な言葉；「無党派層」は無関心ではない → 「無党派層」に向けたメッセージの強化が重要  
社会に不満のある人も多いが、野党の支持につながっていない。

\* 2019年参議選「岐阜選挙区」に向けて。…共闘と市民参加型選挙の深化を目指す。

→ 2017年衆院選 比例代表の与党と野党の差は28,025票だった。「逆転の可能性」はあるのでは。

やっと「市民連合による共闘」のスタートに立てた気持ちになることができる集会だった。(井口 記)

## 森英樹氏 講演会

9月15日(土)； 岐阜市民会館

序章 この夏ドイツに行っておられてドイツ人の気候、気象に対する姿勢から話が始まった。今夏はドイツでも日本ほどではないが、炎暑であったとか。彼の国の人は地球温暖化の原因を突き止めようということに気持ちが向いているとか。日本もそういう動きはあるが、マスコミなどではあまり話題にしていない。

そんな国民性は戦後処理にもはっきり表れているということは、一様に言われていることである。つまり、ドイツ政府の公式見解として自国の戦争責任、誤りにプライドをもって向き合っている。戦争に至った原因をうやむやにせず心に刻み、歴史に向き合うという姿勢。

東西冷戦が終わりベルリンの壁の崩壊後、東から流入してきた同胞との間の争い(ネオ・ナチの台頭)からもきちんと向き合う態度を示している。

本論 憲法9条改憲の歴史的考察。(1) 日本国憲法第1章 天皇 第2章 戦争放棄 (2) 自衛隊の成り立ちと歴史(警察予備隊、保安隊、自衛隊) (3) 自由民主党の結党と党是(目的は改憲)

これ以後の改憲、護憲との闘い。紆余曲折について縷縷、話していただいた。

本日は憲法学から見た「安倍9条改憲」暴走と矛盾という学習会で、この間の歴史を胸に刻んで、活動に生かして行けたらと思う。もし、機会があったらこの次は、日本はなぜアメリカから独立できないのか。それは民族性なのかを聞いてみたい。(平塚 記)

つぎ

9月30日、沖繩県知事選挙で8万票もの大差で、玉城氏が勝利した。  
台風の最中に！

今後辺野古新基地埋め立てが撤回されるか否か。司法の判断に委ねられるにしても、ここ一番日本の司法がまともにも機能しているかが問われる。

遠い沖繩に岐阜からも数名、応援に駆け付けたと聞いた。期待する結果が出てほんとうによかった。一時はあやぶまれていたが、何も応援も声援もできなかったが、ほんの少し支援金を送って、受け取ってもらえたことがほんとに、うれしい。しかも丁寧な礼状まで30日にくださって。

沖繩から民主主義か  
炎暑すぎ

2歳の孫と声合わす  
デンデンムシムシ

蝸牛の歌